

社会医療法人 柏葉会の国際貢献

インドの看護師3人が介護職の技能実習生として活躍中

柏葉脳神経外科病院では2020年11月から、インド北東部から看護師勤務歴2年の技能実習生3人を介護職として受け入れています。

技能実習制度は国際貢献を目的とし、開発途上国などの外国人を日本で一定期間受け入れ、実務を通して技能を習得してもらう制度です。

入職前に日本語能力試験のN3（日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できる）に合格した3人は高いコミュニケーション力で職員や患者さんと笑顔で関わり2年目に入った現在では専門的な介護の知識や技術を身に付け、食事や入浴などの病棟介助業務で発揮しています。

寺坂俊介理事長は「日本の優れた介護技術は世界にとっても必要な技術。病院職員と技能実習生の協働がお互いのスキルアップにつながっています」と話しています。3人の技能実習生は、「先輩の皆さんからより多くを学び、患者さんを幸せにできるように介護しています」と日々笑顔で活躍しています。



2020年11月19日に行われた外国人技能実習生入職式

社会医療法人 柏葉会
柏葉脳神経外科病院

脳神経外科・脳神経内科・循環器内科・リハビリテーション科・麻酔科

救急指定病院 救急患者さんは、診療日・診察時間を問わず
24時間365日診察いたしております

〒062-8513
札幌市豊平区月寒東1条15丁目7-20
☎ 011-851-2333 FAX 011-851-2131
URL <https://www.kashiwaba-nougeka.or.jp>
[休診日] 土・日・祝・年末年始(12/30~1/3)



予約受付/患者支援センター
☎011-851-2370 [月~金] 9:00~17:00

外来診療
脳神経外科 脳神経内科 **予約制** 循環器内科 **予約制**

診察時間 **月~金 9:00~17:00**
受付 8:30~11:30 / 13:00~16:00

専門外来
ふるえ外来 **予約制** もの忘れ外来 **予約制** 脳血管病外来 **予約制**

脳ドック
4つのコースからお選びいただけます **予約制**



2020年3月に社会医療法人の認可を受け、ロゴを刷新しました。緑色の部分で柏の葉と脳を、水色の三日月で信頼を、紫の三日月で尊敬を表現しました。真ん中の白い丸部分は地球です。世界標準の医療を目指していることを伝えています。ロゴ全体は柏葉会の頭文字Hで、活力を取り戻した人のパワーを重ねています。

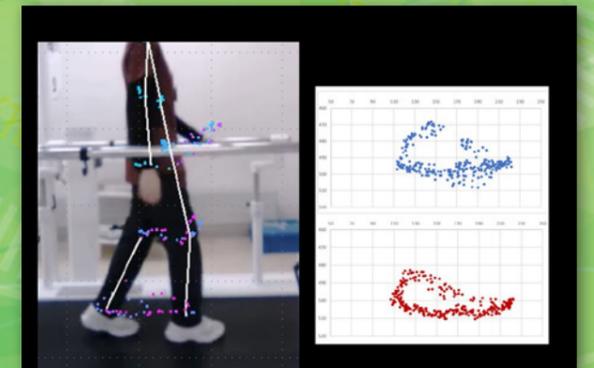
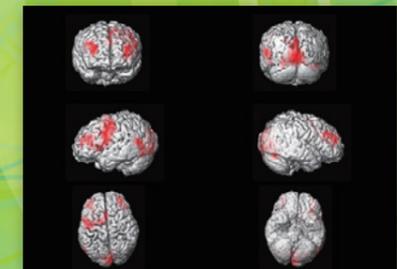
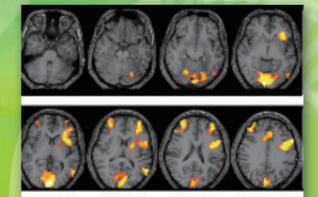
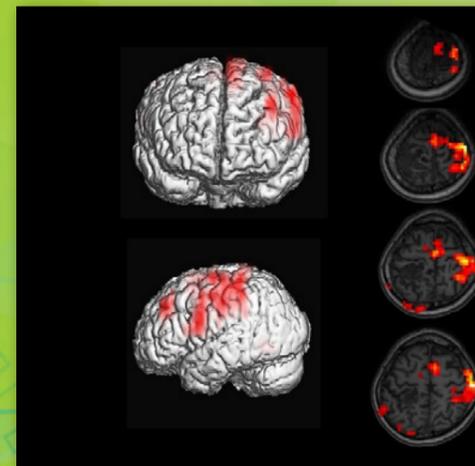
制作/有限会社 慶文社

高精度の医療機器と技術を駆使し
安全で確実な専門治療を提供するために

先端医療
研究センターを
新設

vol.59
2022.4

かしわ
わば
柏葉会 柏葉脳神経外科病院広報誌



社会医療法人 柏葉会
柏葉脳神経外科病院

高精度の医療機器と技術を駆使し
安全で確実な専門治療を提供するために

先端医療 研究センターを新設



Hitoshi Matsuzawa

柏葉脳神経外科病院には脳や脊髄、末梢神経系の疾患が疑われた患者さんが昼夜を問わずに来院するため、迅速かつ適切に診断・治療し、一日も早く回復できるよう個別性の高い医療の実践に全力を注いでいます。そうした中、日々進歩する医療技術をいち早く診療に取り入れることを目的に「先端医療研究センター」の運用を2021年8月から開始しています。

柏葉脳神経外科病院 先端医療研究センター長
松澤 等

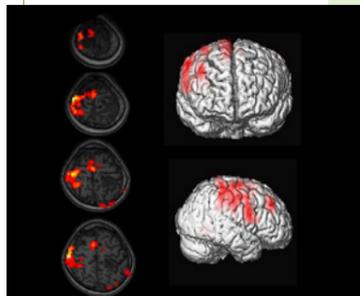
【学歴】

北海道大学医学部卒業
【資格・所属学会など】
日本脳神経外科学会専門医
日本磁気共鳴医学会代議員
北海道大学大学院医学研究院客員研究員
新潟大学脳研究所非常勤講師
日本ディープラーニング協会G資格
医学博士

医学と理工学から得た知識と技術を 地域医療に生かしたい

医学部卒業と時期をほぼ同じくして臨床現場にMRIが登場し、脳神経外科の研修医として勤務した病院で道内最初の超伝導MRI装置の導入に出会いました。非侵襲的に脳の画像を撮影できることや、その画像の描出原理の多様さに魅了され、その後カリフォルニア大学で磁気共鳴物理学を学び、新潟大学脳研究所での日本で最初の3テスラおよび7テスラのMRI装置の導入に携わり、基礎研究と臨床研究を重ねてきました。

柏葉脳神経外科病院で「専門性の高い高度な先端医療を診療に提供するための体制構築を進めている」と寺坂俊介理事長からお声掛けをいただき、自分の知識や経験を臨床の現場で生かしたいと2021年8月に先端医療研究センター長として着任いたしました。



fMRIによる脳賦活部位の可視化

MRIの機能を最大限に活用し 正確な診断・適切な治療を

外からは見えない脳の状態を把握するためには「画像診断」が欠かせません。特にMRIは画期的な進化を遂げ、解像度が向上し、病変に対する感度も良くなり、脳内の病変部がより詳細に明確に分かるようになり、急性期の脳梗塞や時間の経過した脳出血、脳腫瘍などの鑑別も迅速に診断できるようになりました。

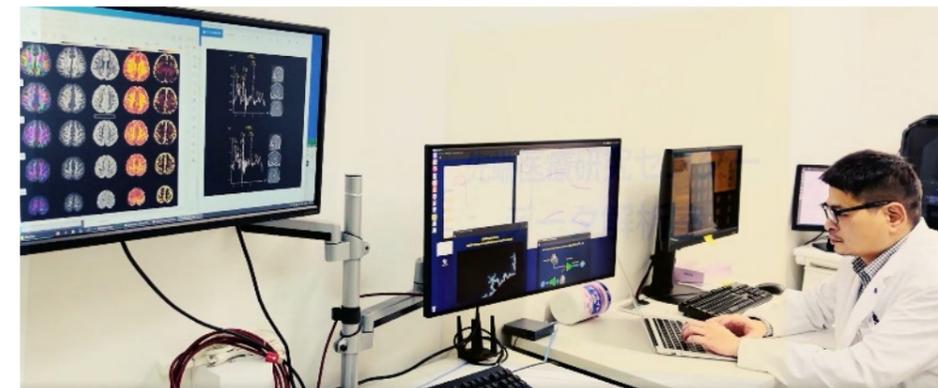
こうした医療機器は高度に精密化・複雑化しており、その機能を最大限に引き出すためには「医学と理工学の知識を併せ持つ専門チーム」の存在が欠かせないと、柏葉脳神経外科病院では先端医療研究センターを新設することを決めました。

当センターの松澤等センター長は、脳神経外科医でありながら理工学にも精通しており、臨床医や診療放射線技師、リハビリテーションスタッフらとチームを組んで、疾患の診断と治療から回復リハビリテーションまでを最先端のものにする取り組みを行っています。具体的には、新しいMRI撮像技術や人工知能を用いた解析技術を導入して、脳の機能局在、神経ネットワークの可視化や動作解析を行い、その情報を臨床の現場に提供します。

診療チームとの二人三脚で 手術の精度と安全性を高めます

手術前のMRI撮影では、解剖学的構造、病変の性状・分布や悪性度、運動野や言語野、神経線維の走行を把握する画像から有効な情報を抽出し、診療チームに提供します。執刀医は多様な画像情報を基に詳細な手術計画を立て、病変部までどうアプローチするのか、器具はどれが最適かということシミュレーションします。手術中にはその神経画像とナビゲーションシステムや内視鏡、手術用顕微鏡などを連動させ、難しい手術を正確に安全にアシストすることができます。

脳血管障害では開頭手術に加え血管内手術も取り入れていますが、高精度の画像情報によって血管損傷などのリスクを回避する方法を手術前に十分検討できます。脳腫瘍では病変部と正常部を見極め、腫瘍周辺の脳細胞の機能を温存し後遺症を残さない手術を計画することも可能になっています。



人工知能技術が 機能回復訓練をサポート

リハビリテーションは、これまで理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が患者さんの姿勢や動作などの観察結果を手がかりに個別の支援を行っていましたが、現在は当センターが人工知能技術を使って患者さんの動作解析や評価を行い、微妙な変化や経過を数値で捉え、個別性の高い適切なリハビリテーションを実現しています。

高齢社会での医療の役割は、病気の治療だけでなく、認知機能や運動機能の維持、手術後の早期回復や日常生活への復帰までの医療を途切れることなく提供することです。

当院は、医療技術の進歩をいち早く取り入れて臨床に生かす体制を構築し、世界水準の医療を地域社会に提供できる脳神経領域の専門医療拠点を目指し進みます。

